

令和元年6月24日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03345

研究課題名（和文）インド太平洋における地域協力制度の形成・発展に関する研究

研究課題名（英文）Research on the creation and development of institutions for regional cooperation in the Indo-Pacific

研究代表者

吉松 秀孝（YOSHIMATSU, HIDETAKA）

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：90300839

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、インド太平洋という新たな地域概念の発展とその意味、この概念の下での日本、中国、インドというアジア主要国の戦略的関係を、インフラ投資や対外援助という経済的要因、海洋安全保障に代表される戦略的要因を織り込みながら政治経済学の観点から考察を行った。また、インド太平洋地域において具体的な対外政策を進めていく上で、主要国が規範、基準、価値といった理念的要素をいかに活用していたのかについて論考を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ここ数年、「自由で開かれたインド太平洋構想」が内外で大きな関心を集めているだけでなく、米国のトランプ政権が太平洋軍をインド太平洋軍に改称するなどインド太平洋への関与を強めている。国際関係における同地域の位置づけや関心は今後益々高まるものと考えられる。本研究は、インド太平洋を巡る国際関係が、米中間だけでなく、日中・中印の間においても経済分野を含めた競争と協力の状況が複雑に絡み合っており、同地域における地域協力の難しさを確認した。

研究成果の概要（英文）：This research explored the development and implication of Indo-Pacific, a new regional concepts. Moreover, it examined strategic interactions among three Asian powers - Japan, China, and India - from a viewpoint of political economy, weaving economic elements such as infrastructure investment and foreign aid as well as strategic factors represented by maritime security. Besides, this research investigated how major states, in promoting concrete external policies in the Indo-Pacific, took advantage of ideational factors such as norms, standards, and values.

研究分野：国際関係論

キーワード：インド太平洋 インフラ開発 地域協力 制度形成 貿易

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、中国・インド・ASEANの台頭、あるいは海洋安全保障への関心の高まりに伴い、「インド太平洋 (Indo-Pacific)」という新たな地域概念が浮上している。米国、豪州の政策関係者が本概念に言及しているだけでなく、安倍晋三首相も政策演説でインド洋と太平洋の連関性に触れている。こうした状況を反映しインド太平洋の枠組みでの研究が生まれているが、こうした研究の主要な関心は伝統的安全保障、特に海洋安全保障での新たな地域概念の意義を探ることにある。しかし、太平洋からインド洋に至る広域的な経済的相互依存関係が形成され、こうした関係を管理するための地域協力枠組みも形成されつつあり、インド太平洋という新たな地域概念に基づいてこうした政治経済的動態を考察する必要がある。

(2) 本研究を進めるにあたり、域内大国の政治的主導性とその競争状況を分析視角として考える。すなわち、日本、中国、インドがアジア地域の発展に資するような政策の推進において自らの政治的・経済的影響力をどのように保持しようとしてきたのかを分析する。また、グローバルな基準、規範、原理の取り込みを第2の分析視角として考え、具体的な政策やプログラムを発表・推進するにあたり、どの国がどのような規範、基準を提示し活用してきたのかを探究する。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、「インド太平洋」という枠組みの下で、貿易、交通インフラといった政策領域における国家間関係の実態と課題を考察することにある。すなわち、インド太平洋という新しい地域概念がもつ戦略的意味を探究するとともに、日本、中国、インドといった域内の主要アクターが経済的手段を活用した安全保障上の優位性の確保といった自国の国益をどのように確保しようとしているのか、また、グローバルな基準、規範、原理を国家間関係の安定に向けてどのように活用しているかを明らかにし、インド太平洋地域の安定した国際関係の構築に向けた課題と展望を提示する。

(2) この研究目的のため、日本、中国、インドが域内の安定的発展につながる共同利益の形成・促進と地域における相対的な政治的影響力の保持・拡大という2つの政策目標を実現するためどのように地域的主導性を発揮してきたのか、国際的通用性のある規範、基準、価値が各国の政策志向の中にどのように取り込まれていったのかを、東アジア地域包括的経済連携 (RCEP) に代表される広域自由貿易協定、高速鉄道網整備を中心としたインフラ投資・開発を巡る状況を具体的事例としながら考察を進める。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究は、特定の政策領域における政策発展を事例として考察する事例研究の研究手法を用いて、インド太平洋における複雑な国際関係の実態と課題を考察する。まず、理論的枠組みを構築することを目指す。本研究の主要な理論的関心は、インド太平洋における地域協力の発展プロセスにおける、共同利益の促進と個別利益の確保に向けた主要国の政治的主導性、国際的通用性のある規範・規則によるガバナンスの形成である。本研究のスタートとして、インド太平洋、リーダーシップ、ガバナンスといった概念の理論的意味、構成概念としての妥当性、実証分析に向けた操作化の確立を進める。アジアに特有の歴史的背景や政治文化を加味しつつ、域内主要国間の政治的関係、グローバルな規範・方法の受容の態様などについて論考を進める。

(2) 理論的枠組みの構築が終了した後で、主要政策領域における個別国の政策動向や地域協力への関与に関する調査を開始する。対象領域として、貿易、交通インフラに焦点を当てる。具体的な地域協力枠組みとして RCEP に代表される広域自由貿易協定、高速鉄道網を中心とした交通インフラネットの形成に着目し、政策発展の実態と課題について文献調査を行う。地域協力への志向がどのように形成され発展してきたのか、主要国は地域的結合性の強化を通じた共同利益の形成・促進にどのように関与しているのか、その関与の過程でどのように個別利益を埋め込み、どのような交渉や駆け引きを行ったのかといったイシューの分析を進める。

(3) さらにガバナンスの形成・発展という観点から政策発展動向がどのように評価されるかを検証・分析する。どういった規範、基準、価値が政策の形成・発展過程で提示されたのか、特定の規範や基準は政策の進展にどう貢献したのかといったイシューを探究する。こうした検討・分析結果を通してインド太平洋地域における国際関係の安定についての意義ある展望を引き出す。調査研究の内容を論文としてまとめ上げ、国際学会において発表する。関係する研究

者との意見交換などをさらに進めて、最終的に質の高い学術誌での出版を目指す。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究の中心概念である「インド太平洋」のもつ意味を日本外交の文脈で考察した。安倍首相は2007-08年の第1次政権の時代からインド太平洋の戦略的意味を段階的に発展させてきた。すなわち、インド太平洋概念の萌芽は、安倍首相が2007年8月のインド国会において行った「2つの海の交わり」演説にみられる。その後、2012年12月の第2次政権誕生後に行われた米戦略国際問題研究所(CSIS)での演説、および同年9月のハドソン研究所・ハーマン・カーン賞の受賞演説での「インド太平洋」への言及、そして2016年8月のケニア・ナイロビでの第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)の基調講演で表明された「自由で開かれたインド太平洋戦略」へと発展していった。インド太平洋の概念は、日本とインドの関係深化において重要な役割を果たした。すなわち、日本・インドが緊密な関係を構築し経済から安全保障にわたる多岐な分野で実践的協働を進めていく上でのリンチピンの役割を果たしているだけでなく、経済安全保障やインフラ開発を進めるうえでの重要な価値を再確認し、中国の対外政策・行動や海洋安全保障の行動をチェックする規範的武器としても機能した。

(2) 「インド太平洋」という地域的枠組みおよび日中の戦略的競争状況において特に重要であったのがインドの位置づけである。日本は、中国の戦略的政策動向や地域外交をにらみつつ、インドとの関係を深化させていった。すなわち、ムンバイ・アーメダバード間をつなぐ高速鉄道計画に日本の新幹線方式を採用することに合意するとともに、インド北東部やアングマン・ニコバル諸島といったインドにとって安全保障上重要な要衝におけるインフラ開発に日本が関与することを確認した。また、インド洋諸国の港湾インフラの開発あるいはアフリカ諸国のインフラ開発をインドとともに進めていくことでも見解の一致をみている。こうしたインフラ開発における日印関係の強化は、一帯一路構想の下でアジアから欧州、アフリカにまたがる広範な地域でインフラ開発を進め、インド洋諸国に対するインフラ支援を通してインド洋における安全保障上のプレゼンスを高める中国をけん制する狙いがあった。

(3) インド太平洋の国際関係において、ガバナンス形成の基礎となる特定の規範、基準、価値の提示が重要な地位を占めていることを明らかにした。日本は、自由で開かれたインド太平洋戦略における「自由で開かれた」という価値にこだわり、海洋安全保障においては「海における法の支配の三原則」を提示している。インフラ投資においても「質の高いインフラ投資の推進のための原則」や「透明性」、「開放性」、「経済性」といったインフラ開発・投資を行うにあたっての国際基準を提示している。中国も、先進国が長年追求してきた開発途上国に重い負担を課す市場自由化の代替となる、政府主導による需要喚起という開発理念に基づくインフラ投資支援を推し進めた。

(4) インド太平洋地域における日本と中国のインフラ投資をめぐる競争状況において、いくつかの特徴を明らかにした。中国は一帯一路構想やアジアインフラ投資銀行などインフラ開発に向けた資金を提供する制度やプログラムを提示し、日本も「質の高いインフラパートナーシップ」など新たな外交戦略を提起した。日中両国ともにインフラ開発に向けた新たな政策を推進するにあたり、アジア開発銀行や世界銀行といった既存の国際開発金融機関(MDBs)との連携を重視していた。また、日中は特定国におけるインフラ開発プロジェクトの受注競争を繰り広げている。その端的な例がインドネシアにおけるジャカルタ-バンドン間的高速鉄道建設プロジェクトであった。本プロジェクトを巡る日中間の競争状況において、インドネシア政府の意向に沿った対応や政策をどこまで提示できたが、プロジェクトに長年関わってきた日本ではなく中国が受注契約を勝ち取ることができた大きな要因になったことが明らかにされた。

(5) 本研究は、インド太平洋という新たな地域概念の発展とその意味、この概念の下での日本、中国、インドというアジア主要国の戦略的関係を、インフラ投資や対外援助という経済的要因、海洋安全保障に代表される戦略的要因を織り込みながら政治経済学の観点から考察を行った。また、インド太平洋の国際関係において、主要国が規範、基準、価値といった理念的要素をいかに活用していたのかについて論考を進めた。米国のトランプ政権が太平洋軍をインド太平洋軍に改称するなどインド太平洋への関与を強めており、国際関係における同地域の位置づけや関心は今後益々高まるものと考えられるが、米中間だけでなく、日中・中印の間においても競争と協力の状況が複雑に絡み合い、同地域の国際関係の安定には多くの不確定要素が存在している。本研究の成果はPacific Review, Journal of Contemporary Chinaといったアジア太平洋の国際関係の研究における最も重要な学術誌での出版論文に入れ込まれるとともに、イギリス・東アジア研究会合同研究大会、米国・国際研究会(ISIA)年次研究大会といった著名な国際研究大会での発表にもつながった。こうした研究成果を生み出すことで、インド太平洋地域における今後の国際関係の展望に向けた一定の知見を提供することができたと考えている。残念ながら貿易分野においては、RCEPの交渉の進展をにらみながら論文を書き進めてい

たが、研究期間中に同交渉が妥結に至らなかったため研究成果を生み出すことができなかった。  
この点は今後の課題として追究していきたい。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

1. Yoshimatsu, Hidetaka, “The Indo-Pacific in Japan’s Strategy towards India”, Contemporary Politics, 査読有, Vol.25, No.4, 2019.

DOI: 10.1080/13569775.2012.728030

2. Yoshimatsu, Hidetaka, “New Dynamics in Sino-Japanese Rivalry: Sustaining Infrastructure Development in Asia”, Journal of Contemporary China, 査読有, Vol.18, No.4, 2012, pp.400-415

DOI: 10.1080/13569775.2012.728030

3. Yoshimatsu, Hidetaka, “Japan’s Export of Infrastructure Systems: Pursuing Twin Goals through Developmental Means”, The Pacific Review, 査読有, Vol.30, No.4, 2017, pp.494-512

DOI: 10.1080/13569775.2012.728030

〔学会発表〕(計 3 件)

1. Yoshimatsu, Hidetaka, “China-Japan and India-Japan Relations in the Indo-Pacific Era”, presented at the 60th International Studies Association Convention, March 27-30, 2019, Toronto, Canada.

2. Yoshimatsu, Hidetaka, “Exploring the Implications of the ‘Indo-Pacific’: A Japanese Case”, presented at the 16th Asia Pacific Conference, December 1-2, 2018, Ritsumeikan Asia Pacific University, Japan.

3. Yoshimatsu, Hidetaka, “China, Japan, and the Geopolitics of Infrastructure Development”, presented at the Joint East Asian Studies Conference 2016, September 7-9, 2016, SOAS, University of London, UK.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等